

国民健康保険（国保）とは

国民健康保険は、市が保険者となつて、ケガや病気の際に安心して医療サービスが受けられるよう、保険料を出し合い、必要な医療費にあつて、みんなで助け合う制度です。国民健康保険制度の状況や市の取り組みをご理解いただくことを目的に、今回は主に国保財政の現状についてお知らせします。

国保の財政状況

市の国保は、長引く不況や高齢化の影響により、保険料収入は低迷し、医療費の伸びによる保険給付費も増加しているため、その財政運営は大変厳しいものとなっております。平成25年度の国保特別会計決算では、平成24年度からの繰越金を除くと約1億円の赤字となっております。国保財政の健全化のためには、保険者である市の取り組みはもちろんのこと、被保険者（加入者）である市民の皆さんのご理解とご協力が必要です。

国保財政が抱える課題

国保は、国民皆保険の基盤を支えるもので、自営業者や年金生活者、無職の人など、他の医療保険に加入できない人を被保険者としているため、安定した財源確保が難しい一方で、医療費の増大が問題となっております。

国保会計の主な収入は、加入者が納付する保険料と、国や県の交付金などですが、保険料の滞納が増えたり医療費の増大が続くと、収支バランスが崩れ、保険料の引き上げが必要になり、加入者の皆さんの負担が増えてまいります。

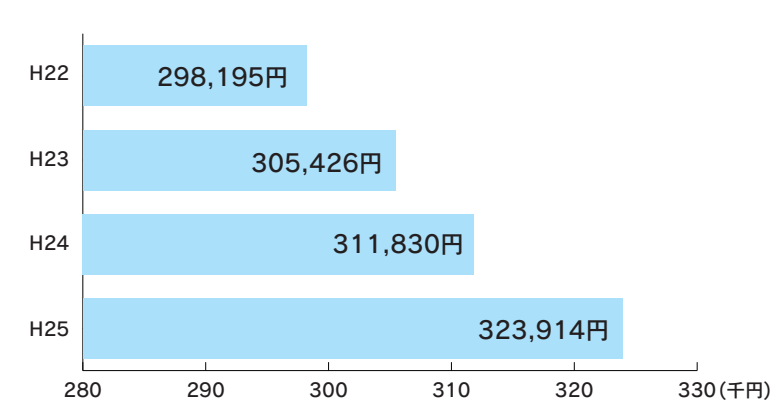
これ以上、国保財政を悪化させないために、市では適正受診、保健事



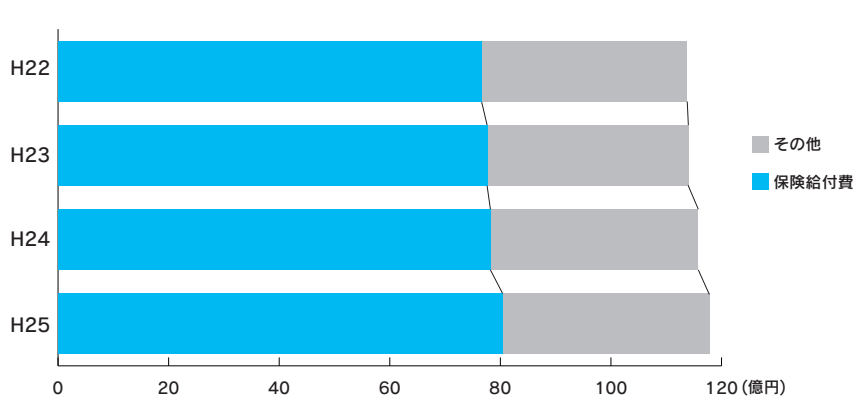
毎年増加している医療費

高齢化や医療技術の高度化に加え、生活習慣病患者の増加などにより、1人当たり医療費は年々増大しており、平成25年度は323,914円となりました（グラフ②参照）。また、市が負担した保険給付費は3年間で約3.7億円増加し、平成25年度歳出決算額約118億円のうち約7割は保険給付費が占めています（グラフ③参照）。

グラフ② 1人当たり医療費の推移



グラフ③ 歳出決算額に占める保険給付費



保険給付費が増え続けるということは、それに見合った財源が必要になるため、最終的に加入者の皆さんに負担いただく保険料の増加につながるという悪循環を生み出すこととなります。

業の推進など医療費の抑制につながる取組みを進めながら、保険料の収納率向上に努め、必要な保険料を確保して財政の健全化をすすめています（H25収納率は約93.7%）。

また、現在は会社の健康保険等に加入している人でも、退職後は国保に加入することになるため、国保制度を維持し、安定した事業運営を継続することは、市のみならず市民全体で取り組むべき課題といえます。一人ひとりが、健康の保持増進に努めることが医療費の削減につながることから、今一度、ご自身やご家族の健康について考えてみてください。

表① 加入世帯数・被保険者数の推移

年度	平均世帯数(世帯)	平均被保険者数(人)		
		合計	一般	退職
H22	17,268	31,657	28,876	2,781
H23	17,089	31,154	28,086	3,068
H24	17,085	30,792	27,728	3,064
H25	16,959	30,378	27,359	3,019
H26*	16,948	30,067	27,544	2,523

※H26は10月末時点の数値

疾病の大部分を占める生活習慣病

平成26年5月診療分で件数が一番多い疾病は「高血圧性疾患」でした。さらに生活習慣病の代表的な疾病である「脂質異常症」や「糖尿病」が上位を占めており、生活習慣病が全体の医療費を押し上げていると考えられます（表②参照）。これらのことから、生活習慣病の早期発見・早期治療による重症化を防ぐことが、医療費を削減するための大きな力ギとなります。

表② 平成26年5月診療分で件数が多い疾病

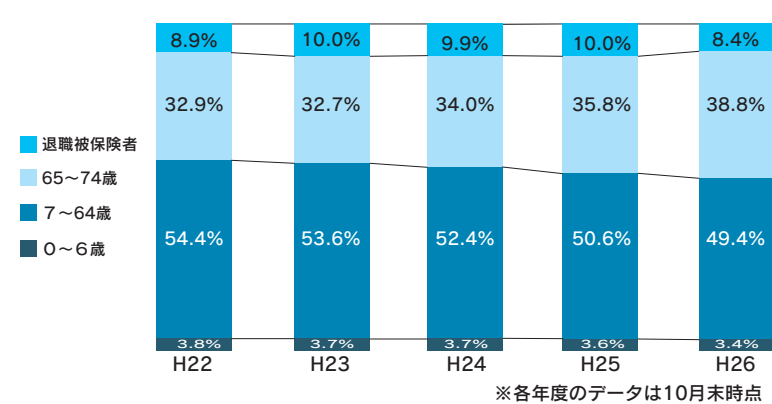
疾病名称	件数
1位 高血圧性疾患	4,128件
2位 歯肉炎及び歯周疾患	2,906件
3位 脂質異常症	1,329件
4位 糖尿病	1,151件
5位 その他の歯及び歯の支持組織の障害	771件

(出典：国保連合会)

市国保の財政と医療費の現状

市では、約3万人が国保に加入しています（表①参照）。被保険者総数が減少する中、65歳〜74歳の被保険者の占める割合が高くなっており、市国保の高齢化が進行しています（グラフ①参照）。医療を必要とする機会が多い高齢者の割合が高くと、医療費も増加していきます。

グラフ① 被保険者の年齢別構成



※各年度のデータは10月末時点

私たちは、病気やケガをしたとき、当たり前のように保険証を持って医療機関にかかることができますが、これは、日本特有の「国民皆保険制度」があるからです。また、この皆保険制度のおかげで支払う患者負担は1〜3割で済みますが、残りは国保が負担しています。安定した国保運営ができるように、そして加入者の皆さんがこれからも安心して医療機関にかかれるように、この機会にぜひ、医療費や健康について考えてみてください。

今回は「生活習慣病の発見に役立つ特定健診」をテーマに、特定健診の重要性などをお知らせします。

